

# 検見川送信所100年

東京学芸大学 理科教員高度支援センター / NICT 滝澤 修

千葉市花見川区にあった逓信省検見川送信所が開設されて今年で100年。廃止後47年経った今も当時の本館が残る施設を振り返る。

## 背景

戦前の電信電話サービス＝逓信省による国営  
↓  
戦後、半官半民の公社をへて民営化(NTT)

- 明治維新後の日本では、海外との通信を外国企業が敷設・経営していた海底ケーブルに頼っていた。
- 日清、日露戦争等を経て、日本は海外の領土(植民地)が増えてきて、海外との通信を外国企業に牛耳られていることは、経済面や国防面で好ましくなくなってきた。また海底ケーブルは有事に敵国に切断されるリスクもあった。
- そのため日本では、20世紀初頭に実用化した無線通信に力を入れ、海底ケーブルに頼らない国際回線の増強を図った。
- 無線通信は海底ケーブルと比べると、建設費と維持費が比較的少額で済み、他者を介さずに直接通信できる利点がある。

1

## 無線通信回線の主な用途

- 船舶など移動体との通信(有線では代替不能)  
→ 銚子無線電報局(千葉県、1996年廃止)
- 固定回線(離れた陸地間の通信、海底ケーブルの代替)  
↓  
対米国の固定回線 … 原町送信所(福島県)・富岡受信所(福島県)  
対欧州の固定回線 … 依佐美送信所(愛知県)・海蔵受信所(三重県)  
対植民地の固定回線 … 検見川送信所(千葉県)・岩槻受信所(埼玉県)

当時の無線通信は、送信と受信を同時に行って効率的に通信するため、送信電波が受信を妨害しないように送信所と受信所を離して設け、中央電信局から遠隔操作により通信した。

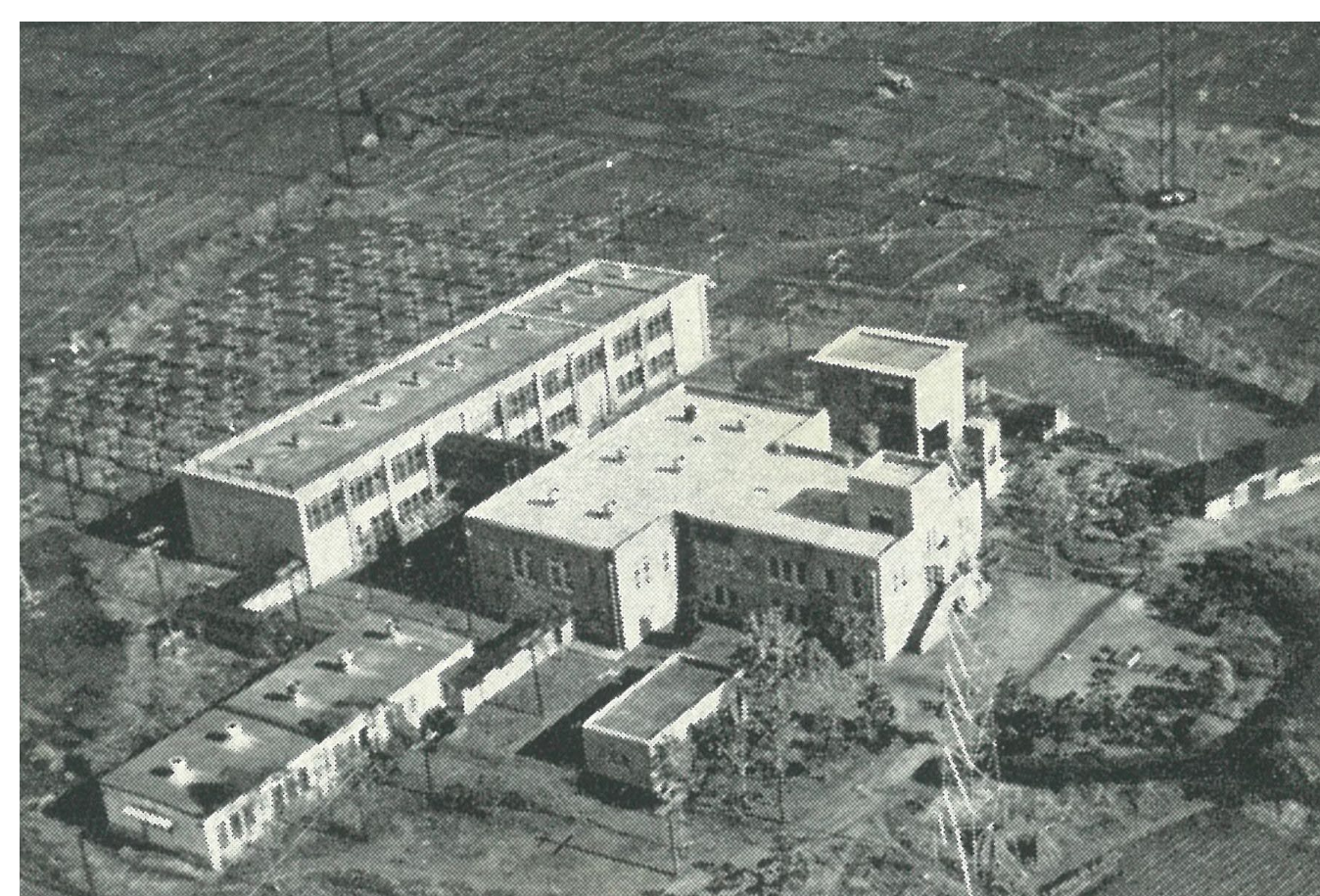
2

## 検見川送信所

- 逓信省が1923(大正12)年度から3か年計画で建設
- 1926(大正15)年4月1日開所 **100年前**
- 対植民地通信を主な業務とした。

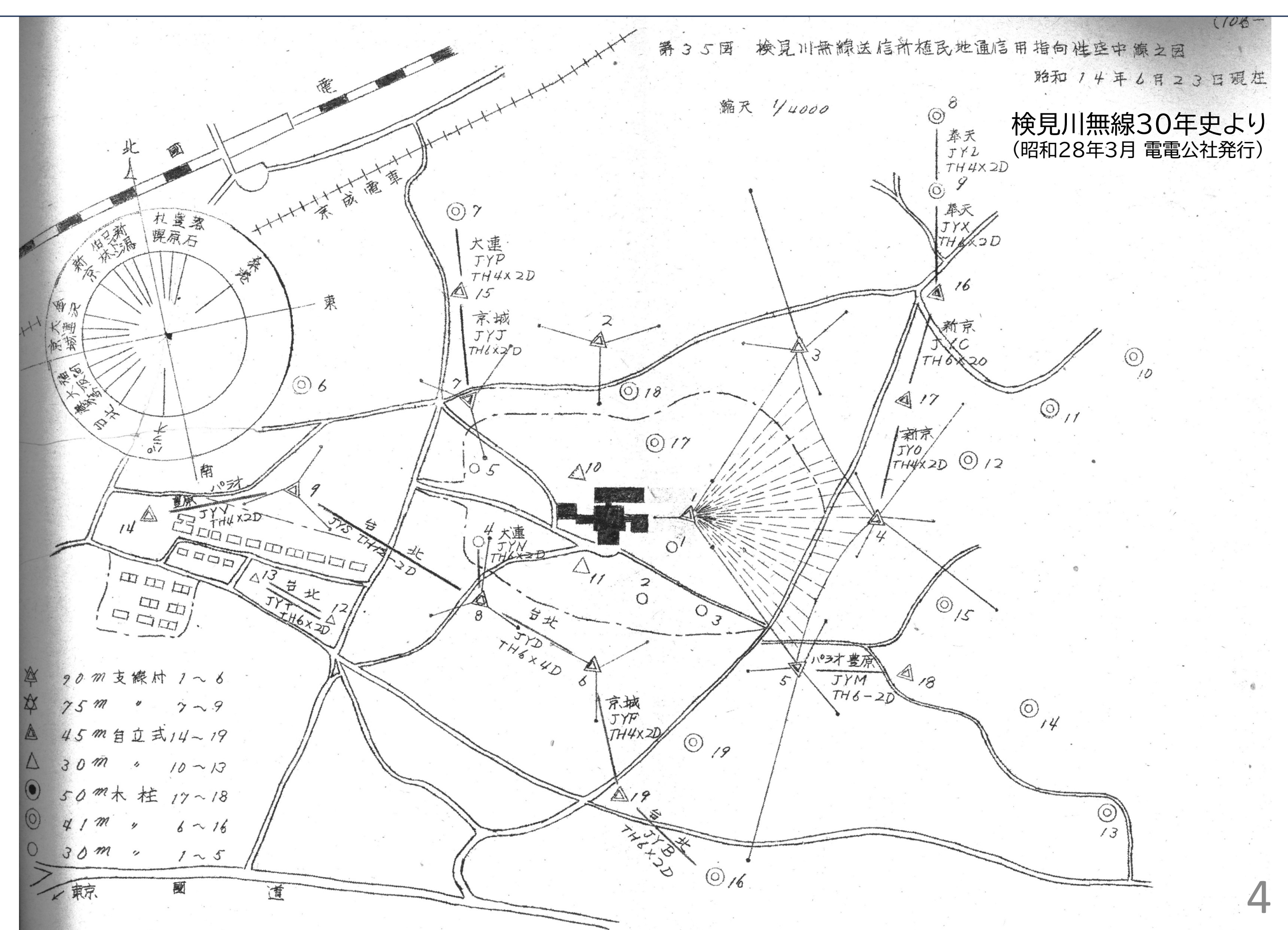
### 通信の相手方

- 豊原(南樺太)
- 大連(遼東半島)
- 京城(朝鮮)
- パラオ
- 台北(台湾)
- 新京、奉天(満州)
- サイパン



検見川無線30年史より(昭和28年3月 電電公社発行)

3



4

## 検見川送信所の功績 (対植民地通信以外)

### (1)短波無線電話の実験と実用化(1930~1934年)

- 日本初の短波電話実験  
台北、ドイツ、米国
- 国際無線電話放送(日、米、英の交換放送)  
日本: 浜口雄幸首相、米国: フーヴァー大統領、英国: マクドナルド首相  
↓  
1934(昭和9)年 国際電話株式会社(現・KDDI)が発足し、検見川から国際無線電話業務を移管

### (2)航空無線業務(1929年~1945年)

- 1929(昭和4)年 民間航空事業開始と共に検見川が我が国初の航空無線業務を担った。
- 同年8月に、ドイツから日本に向かっていたツェッペリン伯号飛行船との交信に成功。
- 終戦により航空事業が禁止されたため、業務を終了。

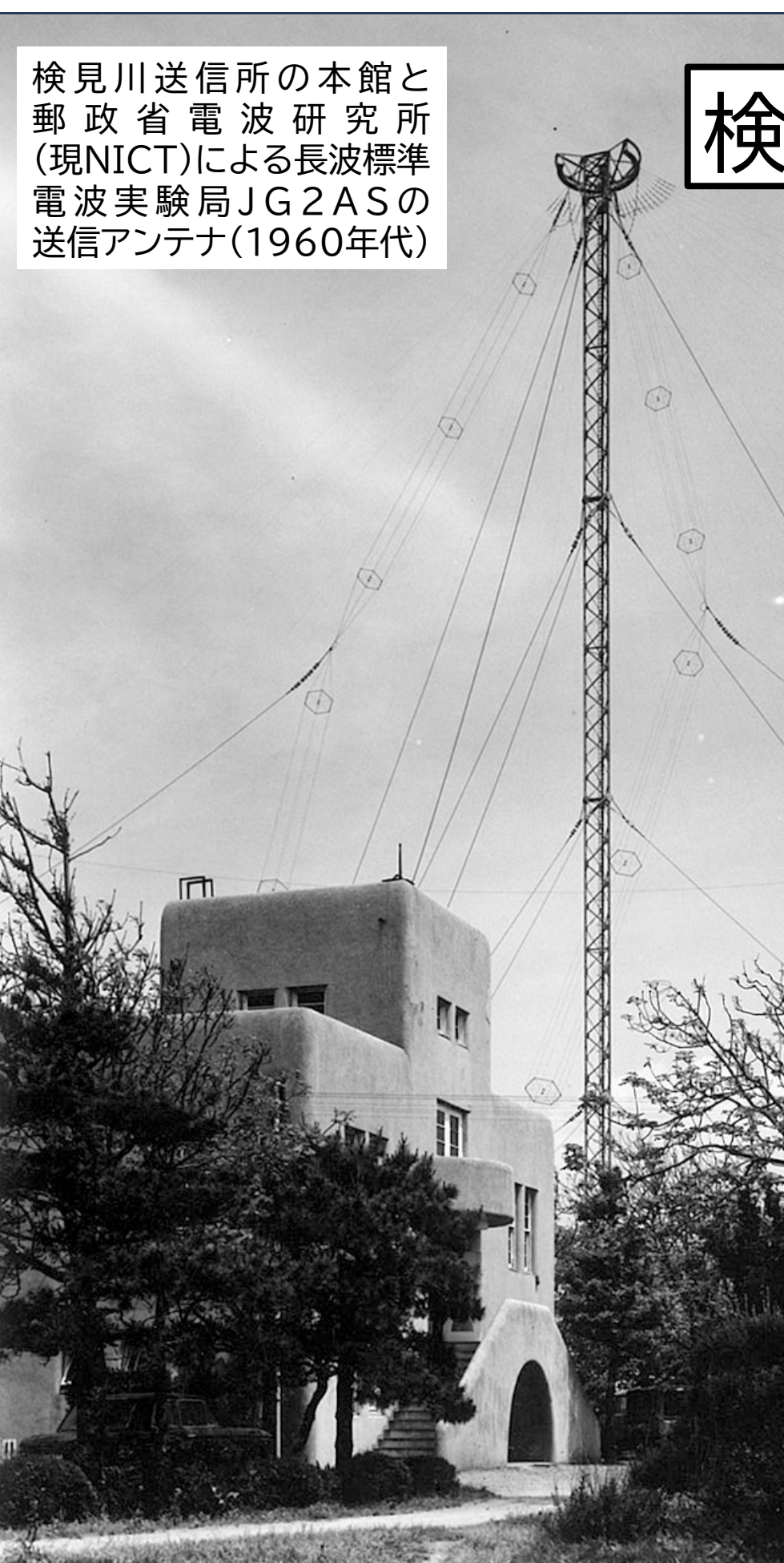
5

## 検見川送信所の功績 (対植民地通信以外)

### (3)標準電波の発射(1927年~)

- 無線通信が発達して局数が増えると、混信を回避するため、各局が割り当てられた周波数に精密に合致した周波数で発射する必要性が高まってきた。
- その実現方法として、基準となる正確な周波数で発射される電波(標準電波)を各無線局が受信して、各局の波長計を校正する方法が編み出された。
- 逓信省による標準電波は1927(昭和2)年から検見川送信所で定期的(毎週土曜日)に短波で発射されるようになり、1940(昭和15年)にはその仕様が官報で告示された。
- 短波標準電波の送信所は1949(昭和24)年に検見川から東京都小金井市(現NICT)に移転した一方、電離層の影響を受けずに安定して届く長波を使った標準電波の発射実験が1966(昭和41)年から検見川送信所で始まり(写真)、標準電波を受信して自動的に時刻校正を行う電波時計の実用化に寄与した。
- 長波標準電波は1999(平成11)年にNICTにより正式なサービスが始まり、電波時計が普及した。

6



検見川送信所の本館と郵政省電波研究所(現NICT)による長波標準電波実験局JG2ASの送信アンテナ(1960年代)

## 戦後の検見川送信所と終焉

- 敗戦により対植民地通信が無くなったことで、検見川送信所はその主な使命を喪失した。
- 戦後の混乱期において、荒廃した国内有線通信網の応急補強回線として無線通信を確保するという新たな使命を一時的に担った。
- 検見川送信所は戦後、逓信省が改組した日本電信電話公社(現NTT)に継承された。
- 電電公社の無線業務の集約化(茨城県の名崎に移転)に伴い、1979(昭和54)年に検見川送信所は廃止された。



← 廃止後に敷地内に建立された記念碑(1984年4月撮影)「検見川送信所を知る会」のサイトより

記念碑部分の残骸が現存→(2026年3月撮影)



7

## 検見川送信所の跡地に残る100年前の本館

2026年3月18日撮影

- 検見川送信所の跡地は、千葉市とNTTの等価交換により、千葉市の土地区画整理事業用地になっている。



- 100年前の本館は関東大震災直後の設計・施工で頑丈に作られており、解体はコストがかかり容易でないため今日まで残っているとされている。
- 本館は、東京中央郵便局等を設計した逓信省技師の吉田鉄郎によるもので、大正時代のモダニズム建築を今に伝える建築史上貴重な建物と言われている。
- 同時期に建設された原町、富岡、依佐美、海蔵、岩槻など全国各地の無線通信施設のうち、建物が現存しているのは検見川のみ。

8